

## 平成29年度 第1学期始業式式辞

おはようございます。

皆さんの知っていると思いますが、本校は、4年前に長い間地域に親しまれてきました大井高校と福岡高校が統合し、普通科と県内唯一のスポーツサイエンス科を併設した学校としてスタートし、今年度5年目を迎えました。

この4年間、本校は、「学習とスポーツ・文化活動を両立し、地域に元気・感動・夢を発信する学校」を目指し、皆さんの先輩や先生方が一丸となって取り組んできました。

その結果、例えば、全国高等学校総合体育大会で 体操競技部が女子団体や女子個人総合で全国初優勝という金字塔を打ち建てたり、陸上競技部、水泳部、柔道部、写真部が全国大会出場を達成したりして、県内はもとより、関東、全国にふじみ野高校をアピールすることができました。

中学校の校長先生、地域の方々からも、本校は、生徒が非常に落ち着いた学校生活を送るとともに、部活動やボランティア活動等で多くの成果をあげているとの評価をいただいています。

私は、こうした成果をたいへん誇りに思っていますが、こうした成果と同じくらい誇りに思っていることがあります。それは、新3年生と新2年生の昨年1年間の皆勤者と精勤者の合計人数が、231名(50.6%)と、半数を超える生徒が一年間一日も休まず登校したことです。

1年間1日も休まず登校した231名の生徒の皆さんの「やり抜く力」、「日々の健康管理」は言うまでもなく、皆さんを支え続けている「ご家族のサポート」に対して、敬意を表すると

ともに、誇りに思うのであります。

さて、私は、「GRIT」という本を読んでいます。その本には、世界で成功を収める人は、生まれつきの才能より、グリット＝「やり抜く力」が優れているとの研究結果が出ているとのことです。

先ほどの皆勤者・精勤者の合計が半数を超えていることから、皆さんは気づいていないと思いますが、本校の生徒は「やり抜く力」があることの証明であると、「やり抜く力」は、本校の生徒の特長であると思っています。

皆さんは、何でもできるというわけではないが、目標をしっかり定めることができた時、興味のあることに出会った時には、「やり抜く力」ができるのです。ただ、まだ気づいていない。気づいていないから途中で力を抜いたり、諦めたりしているのかもしれない。皆さんには、「やり抜く力」があることを、今、自覚してください。

繰り返になりますが、皆さんは、何でもできるというわけではないが、目標をしっかり定めることができた時、興味のあることに出会った時には、毎日がどんなに大変でも、挫折しても、もう一度立ち上がり、続けていく、そうした「やり抜く力」が潜在的に備わっているのです。

潜在的に備わっている「やり抜く力」を自覚して、フルに活用して、先生方の指導の下、運動部活動、文化部活動、生徒会活動、勉強等、自分の興味のあるものにどんどんチャレンジして、「本校の生徒は本気でやればできるのだ」を証明してください。

創立5年目を迎え、3年生、2年生には、多くの可能性を感じています。平成29年度、皆さんはまだまだ伸びます。期待

しています。

結びに、本日、239名の新入生が本校に入学します。先輩として、様々な場面で「やり抜く力」を発揮すれば、「本校の生徒は本気でやればできる」ことを、行動で模範を示して、新入生に伝えてください。